

5 能代の地質

(1) マグマからできた石

①素波里安山岩



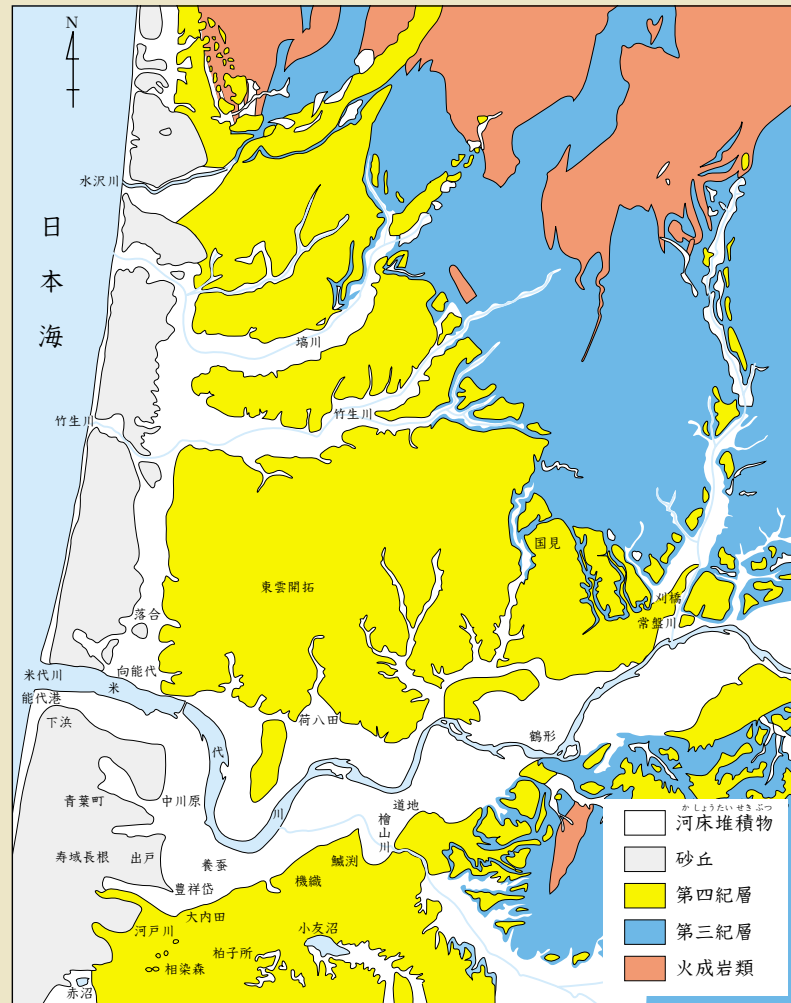
大柄の滝

およそ300万年前、能代山本地方は、浅い海でした。その海底ではあちこちで火山噴火が起こり、よう岩が海底に流れ出て冷え固まり、火山岩ができました。それが黒っぽい素波里安山岩です。(藤里町素波里でほり出され、建築用に使われています。)

常盤川の上流には、広く素波里安山岩が分布していて、急な地形をつくっています。(写真)

よう岩が冷えて固まるとき規則正しいわれ方をすることがあります。大柄の滝はこの岩でできてい

て、がけは柱のように規則正しくわれているようすがよく見られます。



能代市の地質のあらまし

②流もん岩

流もん岩は火山岩のグループでセキエイという鉱物を多くふくみ、白っぽいかたい岩石です。茂谷山はこの岩でできていて、山の形がとがっています。

マグマがわれ目に入りこむと、まわりの地層を引きずります。



鶴形の茂谷山／流もん岩の岩脈

(2) 水中に積もってできた岩石

①でい岩

川の水などによって運ばれたどろが水中に積もってできます。

水の作用で運ばれてくるものが水中に積もってできた岩石をたい積岩といいます。粒の大きさによって、でい岩、シルト岩、砂岩、れき岩と分類されま

す。能代市周辺の海岸部の砂丘の下には第四紀層が広く分布していて、さらにその下にはでい岩を主とした地層が見られます。これが第三紀層です。能代の東方の山の中には写真のようにしまもようがはっきりした地層が見られます。これは女川層とよばれ、魚の骨やうろこなどの化石をたくさん見つけることができます。

②シルト岩

たい積岩で粒の大きさが0.005mm～0.05mmまでをシルト岩といいます。たいへん細かい粒で、指ざわりでも粒を感じないほどです。かなり深い海底でできた岩石です。

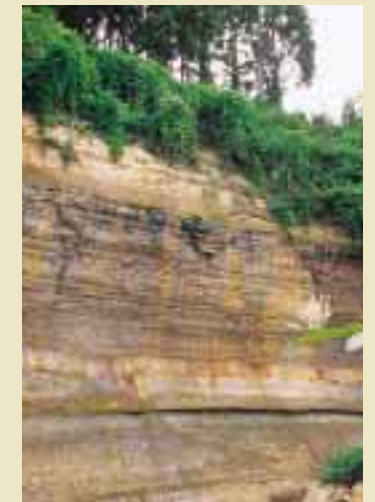
能代では、第三紀層や第四紀層の一部にシルト岩が見られます。常盤川上流、毘沙門への入り口付近のがけは一面シルト岩で、たくさんの貝化石が見られます。でも、がけが急で危険ですから、採集には十分注意が必要です。道路のはしはしをよく見ると、こぼれ落ちた化石をたくさん拾うことができます。



女川層のようす



女川層たい積面



大柄の地層